

第11回 恵那南地区中学校再編委員会 会議録

・日時 平成28年2月5日(金) 19:30～

・会場 岩村振興事務所 大会議室

・出席者 中学校代表 春日井尚武、小板忠昭

こども園代表 千藤まゆみ

地域自治区代表 黄地尚幸、原田知典、阿部道長、堀真人、

安藤仁志、安藤良一、川上貞夫、大島将官

中学校PTA代表 近藤祐司、成瀬浩司、横光基

小学校PTA代表 加藤信之、渡邊大剛、川上渡

こども園保護者会代表 小木曾耕司、伊藤寛隆、堀雄二、川上翔

恵那南地区中学校あり方検討委員会委員 鈴木峰夫、中垣貞好

総合計画審議会代表 西村貢

行財政改革審議会代表 柘植麻美

振興事務所長 西尾茂文、後藤光男、勝川甲子、三宅勝彦、熊谷浩

教育委員会 大畑雅幸

事務局 門野幸次朗、岡田庄二、土屋育代、安藤一博、西尾克子、梅村浩三、石田祐一

山田耕司、度會将仁

・欠席者

地域自治区会長会議代表 山本純、西尾公男、樹神和昭

中学校PTA代表 伊藤昌治、松下雅昭

小学校PTA代表 小川道義、高井良三

こども園保護者会代表 森井清、成瀬一

・委員会内容

1. 開会挨拶 委員長、教育長

2. 議事

委員長 : それでは、議事に入ります。

(1) 学校統合の場所について、(2) 学校統合の時期について、事務局より説明します。

事務局 : 答申書の基になる内容の確認において、別紙1の資料について説明します。

この資料は、第8回、第9回グループ討議の抜粋のため簡潔になっている。この内容から答申案を作成する基になればと資料を出したものである。

2つ目の統合の時期については、再編にあたり設備の整備や細かな調整期間が必要になるため、1つの目安として5年と記した。数字を示すことで1つの目標とするものであり、5年後に決定するものではありません。

委員長：前回は踏まえて各地域で検討をされたと思うので、学校統合の場所、時期についてご発言をいただきたい。岩村地区からお願いします。

委員：1番、昨年の「あり方検討会」の答申を尊重し検討してきた。よって①一つの中学校に統合すること②場所は明知鉄道沿いで新設学校とすること、新設とは新築であり既存学校の改修とは考えていない。

2番、今年度の「再編検討委員会」は統合の時期・場所の答申となっているので、この議論ならば良いが昨年に戻るような検討議論には参加したくないものである。

3番、時期については前回事務局案の数年後を前向きに検討したい。

4番、場所については単に恵南の中心であるとか通学時間の均等性であるとは考えていない。

重視する点は、統合以後の生徒数の推移を下に、将来の各家庭の負担や行政の負担を如何に軽減するか、つまり必要とするスクールバスの数を考慮しながら、如何に多くの生徒が自主通学できるまたは、多くの生徒が安全に且つ安価に通学できる場所とするのが大切と考えている。

委員長：次に山岡地区、お願いします。

委員：場所は時間的、距離的にも中心の山岡がよいのではないかと。

時期はなるべく早い時期にという意見があるが、土地、設計等を含めると4年から5年は必要である。

委員長：明智地区、お願いします。

委員：場所は上矢作地区、串原地区のことも考えると、中心地が最適という最終結論である。

時期は平成33年度を目途にということが妥当である。

委員長：串原地区、お願いします。

委員：1番、統合は1校、場所は山岡地区の案を前向きに受け入れる。

2番、時期は、事務局案の5年を目安とする。

附帯事項として記載していただきたいこと。

①保護者の不安材料を取り除く説明会を引き続き行うこと。

②通学時間は家から学校まで1時間以内とし、ワゴン車を利用した通学を希望する。

③統合は新築とし、場所は統合の年に在学する串原と上矢作の生徒の一番遠いと思われる家から実走行して、双方の中心位置を基準とすること。

④通学はバスと明知鉄道の乗り換えが発生しないようにすること。

委員長：上矢作地区、お願いします。

委員：恵南全体を考えることが必要である。上矢作、串原地区のことを配慮し、通学は1時間以内という方法になることを条件とする。

場所は1校であれば山岡地区に新築とする。

時期は財政的な裏付け、年度の計画がないと判断ができない。いつがいいという結論に至らなかった。

委員長：各地区から発言をしていただきましたが、追加で発言されたいことがありましたらご発言をお願いします。

委員：上矢作地区の意見の追加をします。通学に生徒の負担が軽減されるような、具体的な方法を答申に入れてほしい。

委員長：各地域から発言していただいた内容は、場所は平等な位置で山岡に1校、通学時間は概ね1時間を目安とするということであった。各地域から発言の内容を考慮しながら、答申案を事務局で作成していただくということによろしいでしょうか。

委員：異議なし

委員長：次に2つ目の学校統合の時期になりますが、各地域からは5年くらいの期間に、平成33年度を一つの目標にするということで発言いただきましたので、事務局で答申案の作成をしていただき、委員で確認、修正しながら作成していきたいと思えます。

答申案を作成するにあたり骨子を事務局から説明をお願いします。

事務局：答申案の骨子について、資料に基づき説明。

委員長：学識経験者の皆さんにご意見を伺いたいと思います。始めにこども園の千藤園長さんからお願いします。

千藤園長：この統合に関わるのがこども園の子どもたち、保護者であり、不安を取り除き、よりよい教育の支援のできる環境になるといいと思う。統合して色々な人との関わりや、地域とつながりながら成長できる環境がいいと思う。

小坂校長：それぞれの地域の方が恵南全体の子どもたちのことを考えて協議していただいている。学校としては、最もよい環境で夢や志を持てるような環境をどのように作るか、今後も一層考えていきたい。新しい学校づくりに多くの方の意見や知

恵で夢のある学校を作っていきたいと思う。今ある学校のよさを更に活かしていきたい。スクールバスのロータリーや駐車場の整備をしていただきたい。

春日井校長：恵南地区全体のことを考えられていいことだと思う。一番の目標は通学時間の短縮かと思う。短くなれば大勢集まって勉強することは良いことなので、今後更に考えていくべきことだと思う。答申案の中に統合後の学校の有効活用とあるが、残される学校のことでしょいか。

事務局：再編後の既存校を如何に活用するのかということである。

柘植委員：昨日、行財政改革審議委員会があり学校統合は議題にはなっていないが、学校統合の話題がでた。財政のことは具体的に踏み込んだところは進んでいないが、これから具体的に考えていく事項である。恵南を一つという考え方は素晴らしい、市全体のことと捉えている。じっくり進めていきたいと思っている。そのために附帯事項として記載する事項にあるように、統合後の学校の有効利用や如何に財政を無駄にしないかという観点、財線が厳しい中、地域の住民の協力なくして地域経営はできない。生徒、保護者、地域住民の協力がとても大事な事柄だと思う。

西村委員：答申書には、集団性、社会性、教育スタッフの男女比、経験年数などの教育そのものをアップさせたいことを大前提とし、答申書のはじめにでもいいので原点を踏まえるべきである。それを目指すために時期や場所がくる。目指すべきものをはっきり答申書に書くべきではないかと思う。

不安や懸念は毎年度変わるものである。地域住民の代表とPTA代表者とは協議する場所を作り上げることを附帯事項にすることだと思う。協議する会を作り毎年対応していく。伝統芸能の継承等も学校教育で行うのか地域のコミュニティで行うのかは、どの役割をその協議会に与えるのかを整理しておくといいと思う。統合後の学校の有効活用は、総合計画のレベルの問題だと思う。

時期はなるべく早く、決めた以上は可能な限り早く行うべきだと思う。

委員長：ありがとうございました。

次回の会議は2月26日に開催し、答申案をまとめていくのでお願いします。

副委員長：これをもって第11回恵那南地区中学校再編委員会を閉会します。

20：26 終了